
東方SS

ミコト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方SS

【著者名】

//マト

【あらすじ】

息抜きに更新される東方SS、カオス分高め。

EX会議

「フランデール・スカーレット」

「はーい」

「藤原妹紅」

「はーいはーい」

「洩矢諷訪子」

「はーいよー」

「古畠地こじー」

「はい」

「封獸ぬえ」

「……はい」

「うん、全員いるね。」

それじゃ第十七回EX会議を始めます。

今回の議題も【小野塚小町と四季映姫・ヤマザナドウはEXに入るか】

そう言い終わると、藍は円卓に茶と菓子を置いていった。置き終わるとフランデールと妹紅の間の椅子に腰掛ける。

「こつになつたらこの議題解決するの？」

飴を口の中で転がしながら、何を考えているか分からぬ表情でこいしはそう言つた。

この議題は諏訪子、こいし、ぬえが参加し始める前から話し合われてこるところ。

そろそろこの議題に飽きてきた様子の五人を氣遣い、こいしは無意識を装つてそんな事を呟いたのだ。

「閻魔様に白黒はつきつてしまらえば早かつたんじゃないのかな」

「いや、それは……」

藍はその提案に言葉を濁した。

それは一ヶ月マニアゾウがいつまで経つても参加しないのと同じで、たまに参加する紫が映姫を苦手としているからだ。

自分勝手だろうが、決定権は藍と紫にあるのだから仕方ない。

「それなら大丈夫です」

ぬえが椅子から転げ落ち、紫がスキマから落ちてきて、妹紅が目を逸らした。

会議室とこつねのフランドールの部屋の入口に、誰もが苦手とする四季映姫・ヤマザナドウが立っていたのだ。

「……ノックくらいあるべきだったかしりっ」

どこかずれた咳きをする映姫をよそに、部屋の隅でしゃがみガードを発動する紫とぬえ、それをニヤニヤしながらつづくフランドール、

どうしたらいいのかと狼狽える藍、落ち着いているよつに見せかけて震えている妹紅、映姫の分の茶を用意し始める諏訪子、自分のせいかとおどおどするこいし。
もうこれは会議などではなかつた。

今日のところはひとまず解散し、全てを明日に回した会議。
翌日の第十八回EX会議が幻想郷で語り継がれることになるとは、誰も思っていなかつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5124y/>

東方SS

2011年11月17日20時59分発行